

## 平成29年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

平成30年3月30日

報告者	学科名	造形デザイン学科	職名	准教授	氏名	齋藤 美絵子									
研究課題	災害時の個別的な避難行動を検討するための要素の研究														
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担										
	代表	齋藤 美絵子		造形デザイン学科・准教授	情報デザイン	調査・企画・制作									
	分担者														
研究実績の概要	<p>近年、防災まちあるきや地域防災マップづくりといった「防災イベント」に対する地域住民の認知度は少しずつではあるが向上してきており、こういった自治体や行政主導のソフト対策に分類される防災活動は一定の効果が出始めているといえる。しかし、これらの効果は、防災イベントの実施者によるファシリテーション能力や、参加者の意欲に依存している実情も否定できない。</p> <p>一人ひとりが避難行動をはじめとする災害対応力を向上させるためには、まず、現状における課題の把握が必要であるため、防災イベントの現状を調査した。</p> <p><b>1、調査結果</b></p> <p>【事例調査】様々な防災活動を調査し、主体と姿勢の二軸で分類した。個人の災害対応力が最も向上するのは、この表の右上「大勢で取り組む」且つ「能動的な防災活動」であることがわかった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>受動的な活動</th> <th>能動的な活動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大勢で取り組む</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>防災講演会の聴講</li> <li>演劇、発表等の観覧</li> <li>視聴覚教材の視聴</li> <li>防災講座の受講</li> <li>行政による説明会への参加 など</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練（避難、消火、炊き出しなど）</li> <li>地域防災マップづくり</li> <li>DIG（災害図上訓練）</li> <li>災害対応ゲーム“クロスロード”</li> <li>HUG（避難所運営ゲーム） など</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>個人で取り組む</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>書籍や雑誌、資料から知識や情報を得る</li> <li>視聴覚資料から知識や情報を得る</li> <li>メルマガ、Jアラートから情報を得る</li> <li>テレビ、ラジオなどから情報を得る など</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>防災ゲームやデジタル教材に取り組む</li> <li>避難計画を立案する</li> <li>備蓄品を準備する</li> <li>耐震補強等のハード対策を行う など</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> <p>また、表右上の「大勢で取り組む」且つ「能動的な防災活動」の目的は以下の大きく4つに分けられることが明らかとなった。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、自然現象などのハザードを知る（一般的・過去の災害理解）</li> <li>2、地域のハザードを知る（身近な対象への災害理解）</li> <li>3、リスク対処を検討する（避難計画の立案）</li> <li>4、リスク対処を疑似体験する（対処行動の準備）</li> </ol>							受動的な活動	能動的な活動	大勢で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災講演会の聴講</li> <li>演劇、発表等の観覧</li> <li>視聴覚教材の視聴</li> <li>防災講座の受講</li> <li>行政による説明会への参加 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練（避難、消火、炊き出しなど）</li> <li>地域防災マップづくり</li> <li>DIG（災害図上訓練）</li> <li>災害対応ゲーム“クロスロード”</li> <li>HUG（避難所運営ゲーム） など</li> </ul>	個人で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>書籍や雑誌、資料から知識や情報を得る</li> <li>視聴覚資料から知識や情報を得る</li> <li>メルマガ、Jアラートから情報を得る</li> <li>テレビ、ラジオなどから情報を得る など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災ゲームやデジタル教材に取り組む</li> <li>避難計画を立案する</li> <li>備蓄品を準備する</li> <li>耐震補強等のハード対策を行う など</li> </ul>
	受動的な活動	能動的な活動													
大勢で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災講演会の聴講</li> <li>演劇、発表等の観覧</li> <li>視聴覚教材の視聴</li> <li>防災講座の受講</li> <li>行政による説明会への参加 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練（避難、消火、炊き出しなど）</li> <li>地域防災マップづくり</li> <li>DIG（災害図上訓練）</li> <li>災害対応ゲーム“クロスロード”</li> <li>HUG（避難所運営ゲーム） など</li> </ul>													
個人で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>書籍や雑誌、資料から知識や情報を得る</li> <li>視聴覚資料から知識や情報を得る</li> <li>メルマガ、Jアラートから情報を得る</li> <li>テレビ、ラジオなどから情報を得る など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災ゲームやデジタル教材に取り組む</li> <li>避難計画を立案する</li> <li>備蓄品を準備する</li> <li>耐震補強等のハード対策を行う など</li> </ul>													

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>【実地調査】住民参加型の防災イベントでは、ファシリテータ主導で、参加者の現地観察や被災時の想像による被災・避難シミュレーションが行われている。そこで、ファシリテータのノウハウや、参加者が被災・避難シミュレーションするための手法について、視察・取材を行った。その結果、「規範情報の提供」「他者の知見」「意欲や発言への評価」が重要であることがわかった。</p> <p><b>2、避難行動を検討するために必要な要素</b></p> <p>地域住民一人ひとりが、平常時に自身の避難行動について検討することができる「個別避難計画ツール」の制作を目指すため、個人が避難行動を検討する際に必要な要素を整理した。ポイントは以下の3つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 自身の属性や状況を起点として検討できる機能</li> <li>② ハザードや行動指南といった一般規範情報</li> <li>③ 他者の気付きや知見といった参考情報</li> </ol> <p>本研究により、住民個々の状況や事情を考慮しながら緊急時にとるべき行動を検討するために必要な要素が明らかとなった。今後、これらを用いた「個別避難計画ツール」に展開することを目標とする。「個別避難計画ツール」の実現により、これまでの自治体主導の規範的情報のみの提供や防災イベントではできなかった一人ひとりの目線で必要な対策を検討することが可能となる。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>OPU フォーラム 2018 において成果発表を行う</p>